



# 2020-2021 年度 藤沢ロータリークラブ週報



2020-2021 年度  
RI テーマ  
第 2780 地区 ロータリーは機会の扉を開く  
ガバナー 久保田 英男  
第 3 グループガバナー補佐 市川 洋

■創 立 / 昭和 29 年 6 月 3 日  
■第 67 代 会長 / 野口 捷代 幹事 / 小河 静雄  
■事務所 / 藤沢市藤沢 93 新堀ライブ館 204 TEL : 0466-25-4000 FAX : 0466-26-9292 E-mail : info@fujisawa-rotary.com  
■例会日 / 毎週水曜日 12:30~13:30  
■例会場 / 湘南クリスタルホテル TEL : 0466-28-2111

NO. 8 第 3205 例会 2020 年 9 月 2 日 天候 晴れ

国歌「君が代」  
ロータリーソング「我らの生業」  
「四つのテスト」 三村 浩一 会員

### 《ゲスト・ビジターの紹介》

ゲスト：湯澤 剛 様  
(株式会社 湯佐和 代表取締役)  
大久保 邦彦 様  
(WEB 企画湘南/ 藤沢ロータリークラブ IT 担当)

### 《会長報告》

・今日は少し気温が低く、過ごしやすいのですが、皆様、きちんとしていまして素晴らしいと思います。国家、ロータリーソングを斉唱し、なかなか人が集えないこの状況の中、大切にロータリーを守っていきたくと改めて思いました。よろしくお願い致します。

### 《幹事報告》

・本日例会終了後に理事役員会がございます。理事役員の皆様、ご出席をお願い致します。

出席報告 ( )内は計算に用いた会員数  
+[ ]は Zoom 出席者

- ・9日は、ガバナー公式訪問です。例会後にガバナーとの懇談会がございますので、ご予約ください。
- ・日本のロータリー100周年を記念して、9月18日(金)記念切手が発売となります。見本をテーブルにお配りしましたので、ご覧ください。購入は、各郵便局でお願い致します。

### 《委員会報告》

- ・棕梨地区青少年交換委員長  
9月5日(土)14時より、2019-20年度の青少年交換学生の帰国報告会があります。今回は、人数制限がありますが、公共イメージ委員会よりインターネットライブ配信することになりました。ぜひ視聴をお願いします。交換学生たちの集大成として、1年間何を学び過ごしてきたかそれぞれ話します。URLを事務局より連絡します。Facebookのアカウントは必要ありません。インターネットで見られます。ぜひご視聴ください。後日、ビデオもクラブに配布いたします。

例会月日	会員数	出席会員数	欠席会員数	出席率	メイクアップ 会員数	修正出席者数	修正出席率
8月19日	44(43)名	28名	15名	65. 12%	1名	29名	67. 44%
9月2日	44(43)名	29名	14名	67. 44%			

## 《お祝い》

会員誕生日 9月5日 今井 重信 会員



結婚記念日 9月4日 山本 竹範 会員



## 《2019-20年度皆出席の表彰》

大野木 加代子 会員



## 《スマイル報告》

野口 捷代 会長

先週は皆出席祝いありがとうございました。

新堀さま復活おめでとうございます。

又、本日は湯澤さま卓話 続編宜しくお願い致します。

今井 重信 会員

9月5日に82才になりました。誕生日祝い、ありがとうございます。

棕梨 兼彰 会員

湯澤さま、本日はようこそ。

大久保様、毎回ありがとうございます。

川上 彰久 会員

湯澤さん本日の卓話よろしくお願い致します！

大小原 徹 会員

皆出席の表彰頂き、ありがとうございました。

吉野 貴美 会員

千数は皆出席のお祝いを頂きありがとうございました。

小河 静雄 会員

湯澤様 卓話楽しみにしています。

星谷 けい子 会員

続編を楽しみにしています。

テレビ (NHK) も拝見しました。

廣島 純 会員

先週、皆出席表彰頂きました。

新堀 きよみ 会員

ご心配おかけしました。本日より復帰させていただきます。よろしくお願い致します。

お誕生日のお祝いありがとうございました。



スマイル報告は、新堀会員！

お元気になられてよかったです。



### 《3分間スピーチ》

鈴木 大次 会員



お正月は、なんの為にあるのかご存じでしょうか。お正月は、各おうちに年神様がおいでになるから目出たいのです。そのために年末に大掃除をし、門松を立て、御飾を付け、年神様にお越しいただきます。おうちに神棚はありますか。お札が貼ってある方もいらっしゃるかと思います。年神様をお迎えする前にお札を変えていただくのが、よいです。初詣が行われるようになったのは、150年くらい前からで、そこから、初詣でお札を買って帰るといふ風になりましたが、本来は、年末に代えていただく物です。神社には6月30日と12月31日に大祓式があります。次に3分間スピーチの機会がありましたら、大祓式についてお話いたします。

### 《卓話》

「ある日突然 40億の借金を背負う

—それでも人生は何とかなる 続編」

株式会社湯佐和 代表取締役

湯澤 剛(ゆざわ つよし)様

(紹介者 川上彰久 会員)



藤沢ロータリークラブでお話させていただくのは、2回目です。ロータリークラブでお話させていただくのは、灌漑深いものがあります。父はロータリーの会員でした。中学を卒業後、料理の世界に入ったたき上げで、一代で63店舗の飲食店を築き、ロータリーの会員であることを本当に誇りに思っていました。仕事とロータリーが人生の二本柱でした。

21年前、父が倒れたのもロータリーの姉妹クラブの関係で訪れていたマニラでした。丁度、出張の為成田空港にいた私は、仕事をキャンセルし父のところへ向かいました。子どもの頃から敬語で話すような付き合いで、私と父の関係は、親しくありませんでしたが、病室で会った父親は、心細そうでした。日本食店をさがしてアンパンを買ってくると、涙を流して喜んでいたので、忘れられません。父と二人で過ごした2日間は、心を通い合わせることができた思い出です。なんとか日本に連れて帰り、1週間後入院するはずでしたが、心筋梗塞で亡くなってしまいました。

それまで私は、キンビールでサラリーマンをやっていました。父の会社を継ぐつもりなど全くありませんでしたが、引き継ぐものが誰もいませんでした。いやいや初めて父の会社に行きましたが、父の会社から逃げて生きてきましたから、36歳まで、飲食のアルバイトなども全くやったことがありません。父の会社がどんなものなのか、何の知識もないまま、社長になりました。当時年商20億でしたが、借金が40億ありました。金融関係者当時いわれたのが、このままずっと順調に返したとしても80年かかるといわれました。当時36歳ですから、116歳です。人生終わりだと思いました。毎月元本と金利の合計額で3200万円近くの返済をしなくてはなりません。毎日、金がなくて、金がなくてという日を送っていました。店舗もめっちゃ

くちゃでした。33店舗に店長が2人しかいませんでした。ほったらかしで板前がやりたい放題でした。お金は盗まれる、お客様とのトラブルは毎日、警察に引張られるひどい日々でした。本当に嫌になって、地下鉄に飛び込みそうになったこともありました。

どうやって立ち直ったかという話ですが、まず最初に手を付けたのは、一点突破全面展開という事でした。33店舗全部がぼろぼろでしたから、たった一つでよいから、良いものを作り、それをモデル店舗にして横に広げていくということです。戸塚のお店をリニューアルしたのですが、全くダメでした。他のめちゃくちゃな店舗よりも売上げが低くなってしまいました。私は弱みにばかり目を向けていました。うちの弱みは何か。板前が言う事を聞かない。メニューが古い。サービスができない。女性客がこない。ファミリー層が来ない。弱点を克服することばかりやっていましたが、弱点の克服なんてできません。弱点にフォーカスしすぎていることに途中で気づきました。では、強みは何か。全く思いつきませんでした。でも強みと考えるから思いつかない。では違いは何か。うちのお店は、板前ばかりいる。中高年の男性のお客様しか来ない。一瞬弱みに見える他社との違いが、強みだと気づきました。中高年男性客をターゲットとしてやっていく事にしました。しかしこれも最初うまくいきませんでした。何を選んだかという事というよりも何を捨てたかということでした。女性やファミリー客をあきらめるという事が大事でした。やらないことを決める、商品に力を入れていく、きめ細かいサービスは、あきらめる。そうしてモデル店舗はうまくいき始めました。そうして、3か月ごとに他店も切り替えていきました。しかし、急に良い者が集まってというわけで話ありませんでした。元の従業員を引き連れながらの事です。売上げが上がりながら多くの人が辞めていきました。理解できませんでした。忙しいのが嫌だということです。ひどい従業員だと思いましたが、そんな彼らの中にも、半分くらいは、目の色変えて頑張ってくれる人たちもいるわけです。これが結果の力です。喜んで声がけしてくださるお客様の声と活気づいた店の姿が、やる気のなかった半分くらいの板前さんの心に火をつけていきました。結果の力はすごいと思いましたが。どん底にある時の大事なことの一つは、小さな成功体験を作りアピールすることです。皆の気持ちが、前向きになり快進撃が続いていくわけです。

その後、火事があつたり食中毒事件があつたりしました。社員が亡くなつたりととんでもないことが数々起こりましたが、とにかく心を折らないように毎日過ごし、2015年、40億の借金は、全額返済することができました。一番大事だと思ったのは、心が折れないことだと思います。経営者の心が折れなければ、経営や会社は何とかなると思います。心が折れないようにするために私がやってきたのは、出来事に対する受け止め方をコントロールするという事でした。出来事そのものはコントロールできません。出来事を受け止めて、自分の心が、悲しくなったり、焦ったり、不安になつたりするこの感情もコントロールできません。私たちにできるのは、この出来事と感情の間にある受け止め方、解釈、捉え方です。それさえ失わなければ、どんな苦難な中にあつても人生をあきらめなくてよいのではないのでしょうか。私が大事にした受け止め方の一つに自分が源という受け止め方をいつも心がけていました。今目の前に発生していることは、自分が招いたということです。自分が変われば状況が変えられると受け止めることによって、何故こんなことが起こるのかという気持ちを払拭してきました。

今日一番お話ししたいのは、どんな苦境にあろうとも全ては心の受け止め方一つという事です。そこさえ失わなければ、たとえ今現在私が40億の借金を背負ったままであつても、人生をあきらめなくてもよいし、人生を充実して生きられると思います。

40億の借金を返済した後、会社を分割し、上場企業の出資を受け社員中心でまわしている会社と自分でやっている会社になり、肩の荷が下り、楽になってきたと思ったところにコロナです。金融危機や、リーマンショック、東日本大震災など大変な事がありましたが、飲食店の経営をしている私にとって、このコロナ程、影響があつたことは、一度もありません。最初の影響は、3月でした。4月5月は緊急事態宣言で95%減で、毎日お金が流れ出していく状況でした。6月から少しずつ持ち直してきましたが、8月に陽性者の増加がメディアで報道されるとまた50%切ってしまう、赤字が流れ出してしまふという状況ですので、心は追い詰められております。40億円返済した後、無借金だったのですが、日本政策金融公庫から借り入れをしました。コロナ禍状況下で何に気を付けているかについてお話いたします。これまでのピンチの時もそうでしたが、逆境に置かれた時、二つのことを自分に問いかけます。



一つ目は、今自分に出来ることは何かです。人は追い詰められると意外に自分をコントロールできません。自分に管理の及ばないことで悩んだりします。借金を抱えている時、私の場合のいつも悩みは天気でした。飲食店ですから、週末のかき入れ時に台風が来たり雨や雪が降ったりするとお客様が来なくて、売り上げが下がり資金繰りが回らなくなります。追い詰められた時は、自分にコントロールできることに集中することです。今の私でしたら、資金の調達と社員の心のケアです。もう一つの問いかけは、ここで学べることは何か問う事です。どんなにひどい状況でも、救いようのない出来事からも自分や自分の成長につながる何かプラスになることはないかを見出す。コロナ禍の状況ですが、数年後に振り返って、あのコロナがあったから、今の会社になれた、今の自分になれたと思えるようになる為に今の自分にできることは何なのかという事に集中して過ごしています。会社の会議で、コロナの事で暗くなりますが、非常に効果があったのは、「こんな時だからこそ」を枕詞に会議をしました。「こんな時だからこそ」と最初に行って発言をしました。「こんな時だからこそ、もっとお客様に喜ばれるレシピを見直す」「こんな時だからこそ、お店を徹底的にきれいにしたい」こんな時だからこそ出来ることを今自分にできることは何か、自分がここから学べることは何か、問いかけをする事に取り組みながらやっているとこです。

コロナの出始めの頃、全くわからなくて、先が見えませんでした。40億円の借金をかかえた頃のようなものでした。80年返済にかかるのか、結果が見えない時でした。結果が見えない時、出ない時は、プロセスをに集中することがです。私がやったのは、80年では心が折れますので、1827日5年間だけ頑張ろうという事でした。借金が増えても減っても、とにかく5年間だけ頑張ると決めました。日めくりカレンダーをめくって、結果を求めないで、迷いなくプロセスに集中するという事です。もう一つ、コロナで気を付けているのが、被害者意識です。経営者から見ると、組織の弱いところに歪が出ます。手の付けられなかった弱いところに問題が出る。そうすると被害者意識が強くなります。大きなところから、自分の身の周りの人に移ってきます。それが家族や社員に向かっていったら最悪です。私は、借金を抱えている時、この被害者意識で何度も組織を

がたがたにしてきました。そんな時に大事なものは、感謝の心です。今回も、給料を下げててもよいという社員や、休業中にもかかわらず店を見廻る社員もいました。被害者意識に陥りそうになると彼らを思い出し、ありがたい、自分はいかに恵まれているのかという気持ちになることによって、被害者意識というダークサイドに陥らないようにしています。

一つははっきり言えるのは、全ては過ぎ去っていくという事です。苦難の最中は、それがずっと続くのではないかと思うのですが、中島みゆきさんの「時代」という歌にあるように、あんな日のあったと懐かしく思い出せる日が来るのです。今もコロナの苦しい状況ではありますが、必ず懐かしく思い出せる日が来ると信じて、1歩1歩歩いております。

ご清聴ありがとうございました。



本日のお料理

